

■学校経営のポイント

育てたい資質・能力—教育課程の基準の改定

小島 宏

現在、中教審では、次期教育課程の基準の改定に向けて審議している。具体的には学習指導要領の改訂を方向付ける答申が出されることになる。学校としては、何かが出るのを待つのではなく、今の充実の延長線上で発想し、できることは実行したい。

各教科で育成する資質・能力

現在、各教科等で、目標や内容、特性に応じて児童生徒に育てている資質・能力、即ち学力の中身について確認しておきたい。そして、目指す「学力の中身」を全教員が共通理解し、教育活動を工夫・改善・充実していくことが重要である。

現在の学力の中身は、学校教育法第30条第2項及び学習指導要領総則に、具体的には文科省「指導要録」の評価の観点「関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解」とその趣旨に示されている。これらが、授業の中で主体的・協働的な学習を通して、考え、理解し、でき、活用できるようにしていくことが必要である。これは、学習指導要領の改訂如何にかかわらず不可欠のことである。

各教科等で横断的に育成する資質・能力

学習指導要領の改訂を待たずとも、例えば下記のような「自立した人間として多様な他者と協働し創造的に生きるのに必要な資質・能力」の育成を視野において、教科横断的に配慮していく発想と実行が必要である。ただし、雪だるま式に加えればよいというものではないので、十分な検討を要する。

○何事にも主体的に取り組もうとする意欲、○多様性を尊重する態度、○他者と協働するためのリーダーシップやチームワーク、コミュニケーション能力、○豊かな感性や優しさ、思いやりなどの豊かな人間性、○言語や文化が異なる人々と主体的に協働していくことができるよう、外国語で意見を述べ他者と交流していくために必要な能力、○我が国の伝統文化

の深い理解と多文化への理解等。

21世紀型能力を意識した資質・能力

次期学習指導要領の中核と目される「21世紀型能力：21世紀を生き抜く力をもった市民としての日本人に求められる能力」も意識したい。現行でも無理なく進められる事柄は、教育活動の中に取り入れ、児童生徒を育てていく発想と方策及び実行が求められる。

◆思考力：21世紀型能力の中核「一人ひとりが自ら学び判断し自分の考えを持って他者と話し合い、考えを比較吟味して統合し、よりよい解や新しい知識を創り出し、さらに次の問いを見つける力」(●問題解決・発見力、創造力、●論理的・批判的思考力、●メタ認知・適応的学習力)

◆基礎力：思考力を支える(●言語スキル、●数量スキル、●情報スキル)

◆実践力：思考力の使い方を方向づける(●自律的活動力、●人間関係形成力、●社会参画力、●持続可能な未来づくりへの責任)

児童生徒の学力の実態の把握と必要な対策

学習指導要領の改訂の進展を見据えつつ、目の前の児童生徒の学力の実態を、例えば下記の視点から捉え、授業や評価、学習の仕方の指導を改善するなど必要な対策を講じていく必要がある。

○優れてよい点の確認 → 一層よくしていく

○課題の発見 → 原因を特定し → 対策を立て → チーム学校として組織的に実行していく

○不足や新しいことの必要性の発見 → 不足や社会の変化を捉える → 新規に導入する

○無駄 → 例えば、形式的なドリルは廃止し、習熟と活用の学習を一体化する

(こじま・ひろし＝一般財団法人教育調査研究所研究部長)

●授業力不足の教員をつくらない指導法はこれ！

結果が出る 小・中OJT実践プラン 20+9

【編集】千々布敏弥 A5判・240頁／定価(本体 2,100円)＋税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp> をご利用ください。

